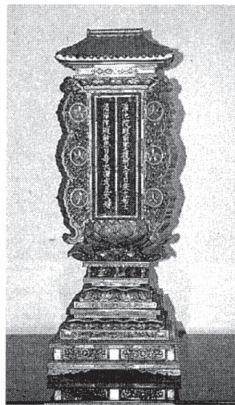


化

文

初代熊本藩主の加藤清正が熊本城を築いて四百年になる。清正は虎退治などで知られる猛将だが、その実像は意外に知られていない。加藤家は二代目忠広の時に改易させられ、史料がほとんど残っていないからだ。

家系図がきっかけ
清正に妻子が何人いたかも諸説あり、はっきりしたことは分かっていない。



清正と正室・清浄院の法名が並んだ位牌

＝和歌山市・報恩寺所蔵

い。初代福山藩主・水野勝成の末裔で結城水野家の二十代目に当たる私は東京でコンサルタント会社を経営する傍ら、清正の妻子に関する研究を二十年以上続けている。きっかけは我が家に残る一枚の家系図だった。水野家に清正に嫁いだ女性がいいた。清正の正室となった清浄院である。

清正の妻は本覚院、正応院、清浄院の三人といわれ、清浄院には子供が

なかったというのが通説だった。清浄院は徳川家康の養女として嫁いだため、「清正は徳川家の女を怪しみ奥に入るのにも刀を離さず、故にこの女性には子供ができなかった」という伝承も熊本には残っていた。

だが、京都・本圀寺にある清浄院の墓所を訪ねると、清正をまつる御堂の前に清浄院の墓碑と紀州徳川家初代頼宣に嫁いだ息女・瑤林院の墓碑が並んでいた。この二人は親子ではないかと直感。通説への疑問がわき、研究にのめり込んだ。

ある清浄院の墓所を訪ねると、清正をまつる御堂の前に清浄院の墓碑と紀州徳川家初代頼宣に嫁いだ息女・瑤林院の墓碑が並んでいた。この二人は親子ではないかと直感。通説への疑問がわき、研究にのめり込んだ。

瑤林院の菩提寺、和歌山・報恩寺への訪問も実りの多い旅だった。瑤林院が生前、朝夕礼拝していたという位牌は、清正と清浄院の法名が併記された父母位牌だった。この両親と娘が深い愛情と信仰で結ばれていたことに心を揺さぶられた。

墓所めぐりに多くの時間を費やし、先々で新しい発見もあった。東京・浄光院（菊池氏）は清正の側室だが、その実在が疑問視されていた。古屋姫の墓碑には、息子阿部正能が母の三十三回忌を追悼し、建立したと記されていた。正能は四代将軍家綱時代の老中で、子孫も代々、老中に就いている。清正の血が古屋姫を通じ、幕府中枢に脈々と流れていたことはあまり語られていない。

通説では三人の妻に四人の子とされていた清正だが、実は五人の妻に、五人の子供がいたというのが私の説である。子供はそれぞれの妻に一人ずつ。糟糠の妻である「山崎氏」と、秀吉による朝鮮出兵の際に亡くなった嫡男「虎熊」の存在を突き止めることもできた。

研究結果まとめ刊行
正確な記録すら残らなかった彼女たちのためにやり遂げなければ、という使命感に後押しされ、研究を続けてきた。その成果はこのほど、熊本県の歴史研究家、福田正秀氏との共著「加藤清正「妻子」の研究」にまとめて刊行した。

五人の子供がいたというのが私の説である。子供はそれぞれの妻に一人ずつ。糟糠の妻である「山崎氏」と、秀吉による朝鮮出兵の際に亡くなった嫡男「虎熊」の存在を突き止めることもできた。

研究結果まとめ刊行
正確な記録すら残らなかった彼女たちのためにやり遂げなければ、という使命感に後押しされ、研究を続けてきた。その成果はこのほど、熊本県の歴史研究家、福田正秀氏との共著「加藤清正「妻子」の研究」にまとめて刊行した。

研究結果まとめ刊行
正確な記録すら残らなかった彼女たちのためにやり遂げなければ、という使命感に後押しされ、研究を続けてきた。その成果はこのほど、熊本県の歴史研究家、福田正秀氏との共著「加藤清正「妻子」の研究」にまとめて刊行した。

研究結果まとめ刊行
正確な記録すら残らなかった彼女たちのためにやり遂げなければ、という使命感に後押しされ、研究を続けてきた。その成果はこのほど、熊本県の歴史研究家、福田正秀氏との共著「加藤清正「妻子」の研究」にまとめて刊行した。

研究結果まとめ刊行
正確な記録すら残らなかった彼女たちのためにやり遂げなければ、という使命感に後押しされ、研究を続けてきた。その成果はこのほど、熊本県の歴史研究家、福田正秀氏との共著「加藤清正「妻子」の研究」にまとめて刊行した。

加藤清正に妻子は何人？

◇通説より多い「妻5・子5人」、40年前の真実追求◇

水野 勝之



は親子とは証明できない。確証を求めて多くの文献にも当たったが、調査は困難を極めた。大名家の歴史を書き留める際、女性の扱われ方がひどくお粗末であったから

池上本門寺は日蓮宗の本山で、日蓮宗の熱心な信者だった清正ゆかりの遺構も多い。紀州徳川家の墓所を散策していると、

一人の年老いた女性が掃除をしていた。これ以上得るものがない、帰ろうと思っていたところだったが、「清正公に關係のあるお墓はないですか」と尋ねてみた。すると、側室・正応院の塔層、献珠院、忠広の墓、白河・阿部家の墓などを案内してくれた。

阿部家の墓の中には、幕閣・阿部正澄に嫁いだ清正の息女・古屋姫こと「本浄院」の墓があった。寄り添うように並んだ墓の立派な供養塔の地輪を見て、驚いた。「肥後守大妃浄光院殿日英御神尼」と記されていたから

清正の妻子の人数について「新熊本市史」の中で同様の指摘をしていた清正研究の大家・森山恒雄先生（熊本大学名誉教授）が本のごことを褒めていたと聞きうれしく思った。先日、熊本で開かれた清正に関するシンポジウムではパネリストとして招かれ、自説を紹介する機会を得た。四百年の時をへて、彼女たちの思いをこれからも多くの人に伝えたい。（みずの・かつゆき＝コンサルタント会社経営）